

宝塚市長 中川智子様

令和2年1月30日
宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会
会長 松原孝彦

太陽設備宝塚発電所開発計画に関する緊急要望

●宝塚市内に計画されているメガソーラーについて

この度、宝塚市切畑字長尾山 1-1 外に「太陽設備宝塚発電所開発計画」が届出されました。

この開発事業計画は事業区域面積 9.2433ha（甲子園球場の約 2.4 倍）という広大な山林を開発し、うち 2.5696ha に 10,332 枚の太陽光パネルを設置するという、宝塚市内でも例を見ない大規模メガソーラー建設計画です。

●予想される被害

事業予定地の一部は土砂災害警戒区域に指定されているため、このような大規模開発事業では、操業中はもとより開発工事中から事業撤退後まで土砂流出・土砂災害が起こりやすくなるのではないかと懸念されています。

また、近年強大化している台風では、インフラの設計強度を超える強風で太陽光パネルが飛散する被害が多発しており、当計画においても長尾台、川西市南野坂などの住宅地へパネルが飛来した場合の二次被害が危惧されます。

●「北雲雀きずきの森」には1億円が投じられています

事業地に隣接する都市公園「北雲雀きずきの森」（28ha）は、「民間事業者による無秩序な開発を防ぎ、長尾山系に位置する貴重な近郊緑地を保全する目的」で、2007 年に宝塚市が独立行政法人都市再生機構から約 5000 万円で取得したゴルフ場跡地です。その後、県立南但馬自然学校校長・服部保先生のアドバイスも受け、まちづくり協議会環境部会を中心とした近隣住民ボランティアが園内整備や特定外来植物の駆除、希少生物の保護などの環境保全を続けてきました。

この間、「里山ふれあい森づくり事業」（3,000 万円）など県・市・民間から受けた助成金などは約 5,000 万円にのぼります。

●貴重な“まち山”

このような保全努力の結果、北雲雀きずきの森は四季を問わず多くの野鳥が生息し、森内の「ひょうたん池」には環境省指定絶滅危惧種Ⅱ類「カスミサンショウウオ」と兵庫県指定絶滅危惧種Ⅱ類「モリアオガエル」が生息する貴重な「まち山」として、近隣小・中学校の環境学習にも利用されています。

なお、現在更に国と市の予算 2 億円をかけ、5 カ年計画で園路やビオトープ新設などの更なる整備が進行中ですが、隣接地での開発によって希少生物の絶滅、外来種植物による地域植物の駆逐、野鳥の激減、景観の悪化などがあった場合、その価値が大きく損なわれることとなります。

●災害から守り、環境も守りたい住民

以上のような懸念から「宝塚市開発まちづくり条例」に則り、当協議会を含む約 80 人の住民が「特定開発事業計画報告書に対する意見書」を提出しましたが、これに対する事業者の回答は一律、「本件における開発にかかわる関連法令基準に基づき、法令順守を致して事業を遂行させていただきますので、ご理解並びにご了承賜りますようよろしくお願いします。」というものでした。

このような合法的であれば全て良しとする誠意のない回答では地域住民に対する説明責任が果たされているとは言えず、私たちは県・市を通じて更なる協議を要望していますが、事業者が応じる姿勢はみられません。

住民の不安を残したまま、事業者は「兵庫県太陽光発電施設等と地域環境との調和に関する条例」及び「宝塚市開発まちづくり条例」に基づくとする手続きを着々と進めています。

そのため工事着手にあたり、知事に緊急の要望書を提出するに至りました。

【要望事項】

以下の事項について行政指導を強く要望いたします。

- 1) 工事期間を含め事業による災害、住環境や景観の悪化、災害時の補償、事業撤退後の修景など地域の懸念する事項を解消すること。
- 2) 規模の大きさに鑑み、開発にあたって自主的に環境アセスメントを受けること。
少なくとも専門家の意見を聞き、生態系保全を行うこと。
- 3) 更なる説明および協議をすること。